

令和３年度 第１回鈴鹿市上下水道事業経営審議会 議事録

○日時：令和３年８月３１日（火） １３：３０～１５：５０

○場所：鈴鹿市上下水道局 本館２階 第３会議室

○出席者：

[委員] ８名 （オンライン出席） ４名

石川 裕，木村 好己，齊藤 由里恵，柴 健次

（会場出席） ４名

木村 喜美子，鈴木 良一，森川 美和子，吉島 隆子

（欠席） １名

安田 武史

[鈴鹿市上下水道事業管理者] 富田 佳宏

[事務局] 上下水道局次長 宮崎 信通

上下水道総務課長 笹間 栄二

上下水道総務課総務グループリーダー 益川 真也

上下水道総務課総務グループ 吉田 隆史

上下水道総務課総務グループ 西尾 恵理子

上下水道総務課総務グループ 中島 由起

経理課長 山田 一郎

営業課長 田原 哲治

水道工務課長 竹内 吉延

下水道工務課長 岡田 旬史

下水道工務課計画グループリーダー 齋藤 鎮伸

水道施設課長 小原 義隆

○傍聴者：２名

○内容：次のとおり

1 開会

開会の挨拶

2 上下水道事業管理者挨拶

挨拶

3 委嘱書の交付

オンライン出席者及び欠席者には、事前に委嘱書を送付

会場出席者には、机上に配付

4 自己紹介

委員名簿順に自己紹介（欠席者は、事務局から紹介）

5 会長及び副会長の選出

委員の互選により、次のとおり決定した。

会長 柴 健次 委員

副会長 鈴木 良一 委員

6 諮問

上下水道事業管理者から会長宛てに鈴鹿市上下水道事業の経営の在り方について諮問がなされた（副会長に手交）。

（上下水道事業管理者退席）

7 議事

（1）会議運営に関する事項について

事務局から「資料1 会議運営に関する事項について」について説明がなされ、会長が意見を求めたが、特に意見は無く、原案どおり承認された。

(2) 前回の審議会の振り返りと検証について（公共下水道事業・農業集落排水事業）

事務局から「資料2 前回の審議会の振り返りと検証について」の「1 前回の審議会の内容」, 「2 経営改善に向けて行った取組」についての説明がなされ, 会長が質疑・意見を求めた。

《質疑・意見》

特になし

(休 憩)

事務局から「資料2 前回の審議会の振り返りと検証について」の「3 2017年度から2020年度までの実績, 経営戦略との比較」, 「4 投資目標・財源目標の達成度」, 「5 今後の見通し」, 「6 第1回審議会資料のまとめ」についての説明がなされ, 会長が質疑・意見を求めた。

《質疑・意見》

【石川委員】

43ページの事業費の見込みについて, 2027年度と2028年度が「0」になっているが, 計画を立てていないためその分の差が24%増えたということであれば, あまり比較しても意味がないのではないか。2027年度と2028年度は後ろ倒しになったということか。

【鈴木委員】

2026年度までに終わる予定だったが, 2年間は予備ということではないのか。

【事務局】

当初は2026年度までに640ヘクタールを整備するという計画だったが, 事業費が増加しているため, どうしても計画が後ろ倒しとなり, それを資料に記載した。640ヘクタールの整備を完了させるには2028年度までかかる見通しであ

る。

【石川委員】

当初の2026年度までの事業費に対しての最新の事業費ということで理解した。それであれば、2027年度の19億円や2028年度の19億5千万円を前に持ってくることはできないのか。

【事務局】

事業費を増やして整備を急速に進めることができるかという点、今の人員ではなかなか難しく、物理的に進められる区域や今の人員を考えた上で計画的に進めると、どうしても640ヘクタールの整備を完了するには2028年度までかかる見通しとなっている。

【石川委員】

それであれば、計画が遅れたということだけでなく、遅れた理由をもっと明示すべきではないか。

【事務局】

まず、事業費の高騰により遅れが生じており、原因としては、消費税の増税、工事に係る人件費の高騰、工事経費の一般管理費率が上がったことや、工事中の安全確保のための交通誘導警備員の増加、工事により発生する建設副産物に係る処分費、残土処分費の増加などが挙げられる。

また、下水道は自然流下のため、下流から徐々に整備していくしかなく、集中的に工事ができる現場がないことや、交通の迂回路の確保といった観点からも、同時にたくさんの箇所を工事できないため、2年間の遅れとなっている。

【鈴木委員】

年間に投資する金額が決まっており、それ以上の投資が難しいため整備が遅れるということか。それとも、お金が用意できれば、640ヘクタールを2026年度までにできるのか。

【事務局】

迂回路の確保といった整備する地域の交通事情や、下流から順次整備していく必要があるため、お金の用意ができたとしても整備できるものではない。

【柴会長】

特に事情が急に変わって計画どおりにいかなかったという予期せぬ事情が主要３項目挙げられているが、これも見方によっては当初の計画にずれが生じてきているわけで、４番目の予期せぬ事情となる。

現時点では2026年度までには完了せず、2028年度までかかる見通しで、そこまでは投資及びその財源の手当も済んでおらず、2027年度と2028年度が「０」となっているが、こちらにも数値を入れるように見直すというグラフであれば理解できる。

【石川委員】

先ほどの事務局からの説明で、前半は投資費用が増えた理由だったが、後半は工事が遅れた理由であったため、遅れた理由と金額がオーバーした理由は切り離して考えないといけない。

【柴会長】

今後の戦略計画の数値の見直しのときに考慮をお願いしたい。

【石川委員】

使用料改定の話は今後出てくるのか。

【柴会長】

それは、この審議会での審議次第ではないか。事務局としての考えはどうか。

【事務局】

使用料改定については、前回の審議会においても中間期間を過ぎた頃に見直しも検討していくべきという意見をいただいたかと思う。

平成30年度の使用料改定では、公共下水道事業が20%、農業集落排水事業が38.9%と高い改定率であり、市民の皆様の中々ご理解を得られず、中には窓口で納得いかないと言われる方もいた。広報や議会等でも丁寧に説明したつもりではいたが、コスト削減といった努力も併せて説明するなど、市民の皆様への説明の仕方にもう少し工夫が必要であったかと反省している。

今後の使用料改定については、経費回収率の見直しを見ると、やはりもう少し見直しが必要であると認識している。ただ、改定から数年しか経っておらず、昨今のコロナ禍における不況といった情勢がこれだけ厳しい状況であり、コロナ禍における市民への生活支援として反対に基本使用料を減免している自治体も出てきている。近隣では四日市市や津市が減免を実施していたが、鈴鹿市の場合は改定をしたばかりということと、経営的にも苦しい状況であったため、議会等にも説明を行い、減免を実施しなかった。

こうした状況を考えると、使用料改定をすぐに行うことは困難であると考えており、しばらく様子を見て、社会情勢等が好転した際には、当然検討すべきものと考えている。

【柴会長】

使用料改定も視野には入っているが、それを計画として出しにくいということである。そうすると、財源の方が膨らまないの、投資計画の方を縮小するという見直しになる。

【鈴木委員】

23ページの基準外繰入金について、国から算定方法が明示されたということだが、戦略策定時には明示されていなかったということによいか。明示されたことにより、税金で負担すべき部分ということが明確にされたということによいか。

【事務局】

基準外繰入金の算定方法は、戦略策定時には国から明確な算定方法が示されておらず、鈴鹿市独自方式で算定を行った。しかし、その後国から明確に算定

方法が示されたため、その算定方式に基づいて再計算している。

【鈴木委員】

そうすると、今は税金で一般会計から繰り出されるお金になったということ
でよいか。

【事務局】

国からは一般会計が負担すべきものとして基準が示されている。ただ、一般会計の財政状況が苦しい中、絶対に繰り出されるかという、そこも厳しい状況になりつつある。

【鈴木委員】

戦略計画とは話が外れるかもしれないが、先ほどの減免については、使用料が減るため、当然税金で負担することになり、鈴鹿市全体で負担するという
ことであるため、ある意味同じ話だと思う。減免となるといいようには見えるが、
実際には皆さんの税金で負担しているということを理解していない人が、苦情
を言ったりすることがあるので、そういうことがあれば違うということを我々
も話をしたいと思うが、それで間違いはないか。

【柴会長】

前回の議事録を確認してほしいが、上下水道局としては、基準外繰入金は最終的にはゼロにするという話であったと思う。ただし、基準内繰入金の基準が変わったので税金から補填される部分の金額がどうなるかは分からないが、鈴鹿市全体の一般会計も含めてここで審議を行うと議論が混乱しかねないため、ここでは上下水道局として健全なる経営をやりながら、基準内繰入金までは視野に入れて、それを超える部分はゼロにするという合意でいいのではないかと思う。

【齊藤委員】

経営戦略と実際のずれについて、計算方法の考え方などが、当時に戻って考

えると直せるものだったのか、それともやはり予期せぬもので、当時では考えられないものだったのか。ずれがあるのでこのタイミングで見直しをするということは、素晴らしいことだとは思う。今の見直しの段階で、そのずれがどういったものだったのか分析し、こちらでコントロールできるようなものだったら、それを今後反映させればいいと思うが、見込めなかったものが頻繁に出てくるようなものであるならば、それをどうやって解消していくかということを今後話し合っていくべきところかと思っている。

使用料改定をすぐに行うことは難しいため、投資側でどうにかできないかという話だったが、多分今後も見込めないようなことが続くと思われる。その時に、今後も同じように投資を圧縮することを考えると、今は新規事業があるのでそれをしないという判断ができるかもしれないが、維持管理といった経費については、使用料をもって賄うべきであり、使用料改定ということを定期的に行うようなことも文言として入れておかないといけないと感じた。

【柴会長】

戦略策定時には入っておらず、計画を修正しないといけないようなことを特に注意して説明はあったが、その説明の際に「これは全然予期しなかった」「予想できそうだったけどできなかった」といった説明はなかった。

例えば、補助金が出ることを前提に投資計画を立てたが、補助金が出なくなったというような話になると思うが、25ページの戦略策定時と異なる点で投資の整備計画の区域が変わったと間接的に説明があり、これはやろうと思ってもその計画を実行するのは難しく、実際にやるとなると自主財源でそれに取り組まないといけないというところがあったと思う。その辺りが齊藤委員の納得できるような明確な説明にはなっていなかった。事務局から補足はあるか。

【事務局】

まず、23ページの人口であるが、戦略策定時に人口が減るという予測はしていたが、これほど早く人口が減少するということは想定外だった。

また、24ページの基準内繰入金の算定方法が国から示されたというのも、戦略策定時には独自方式で算定方法を見直そうとしていたが、その後国から算定

方法が明示されたため、こちらも想定外のことであった。

これに対して25ページの計画区域の見直しについては、戦略策定時に国から見直しの話は確かに示されていたものの、当時はまだ下水道事業、農業集落排水事業、合併処理浄化槽事業を、国土交通省、農林水産省、環境省の3省がそれぞれ推し進めていた時代で、公共下水道事業の補助金がそこまで削減されるということは予想していなかった。この3省や国自体に財源がなくなってきたこともあり、汚水処理方法について、最も効率的で費用のかからない方法であれば、公共下水道事業、合併処理浄化槽のいずれの整備手法でもいいので2026年度までに汚水処理の概成を目指す10年概成が示され、その後、2026年度を過ぎれば全国的に新規整備事業への補助金を削減することが明確に打ち出された。これを受けて鈴鹿市も計画を早急に見直したが、戦略策定時にはこれほど見直しを急速に進めなければならないという認識が甘かったと言わざるを得ない。

【齊藤委員】

前回の戦略を責めることはもちろんないし、きちんとした戦略を立てていたと認識している。だからこそ、不可抗力といった自分たちで予期できないところでの変更というのは往々にしてあるので、そのずれを何で今後対応していくのかは、書きにくいところではあるが、使用料を定期的に見直すといった話はやはり必要かと改めて思った。

使用料は3年から5年で見直す流れになっているが、毎回使用料改定をしなければならないというわけではなくて、検討していくということが必要かと思っている。

【柴会長】

事務局が現時点では困難と言っていた使用料改定も完全に否定する必要はないという意見であった。不可抗力のところは短期的に修正するとして、2055年度までの計画のため、今後将来にわたって使用料改定が全くないということは議論としては難しいと思う。

様々な質問で明らかになったと思うが、一番の問題点は、前回の戦略策定時に予測できなかったことが幾つか重なったことである。人口減少については、

想定以上に進んだということであったが、人口減少以外のところでも上下水道局が対応できないような急激な変化が外から要求されてきたということであるため、当然現在の経営戦略をそのまま実行するのは不可能ではないかと思う。そこは修正するとしても、経費回収率を高めていくという観点から、先ほど意見が出たように使用料改定をタブーとする必要性はどこにもないということでよいか。

検証した結果、ずれが生じている原因も幾つかあり、もう少し明確になぜずれたのかを説明してほしいとの意見もあったが、大体了解いただけたと思う。次に移ってよいか。

(「異議なし」の声あり)

(3) その他

第2回の審議会は次のとおり開催予定

日時 令和3年10月29日(金) 午後1時30分から2時間程度

場所 上下水道局

8 閉会

閉会の挨拶

— 了 —